夕刊
磐城新聞
九月二日發行
發行所 磐城新聞合資會社
電話五六四番
（月曜日祭日翌日休刊）
東京振替一〇八五五六番

天氣豫報　小名濱測候所發表
今晩は北の風驟雨模様
明日は南の風晴驟雨模様

嗚呼、新妻英君

一角生

上

廿八日夜青島の實弟の子女が四人で避難して來たこと、弟夫婦の無事避難を机によつて祈つてゐた。戰況のニュースの中に新妻英君の名があつた。あゝ同姓同名か、又我が耳を疑つた、殺ても眠ることが出來なかつた、翌日時節柄の用務を済し驛から歸つてから新聞を見る

廿七日午前一時頃滿洲國〇〇省〇〇附近に於て、共匪約百名に遭遇し、勇敢に奮闘したるも衆寡敵せず、六名共に戰死すとあつた。

戰友の出身地はあるが君のは〇〇軍〇〇隊としかない、直ちに東京杉並區井荻二の一一二に問合せると『チチ二七センシストシブミ』の返電があつた、あゝ名譽の戰死は事實であつた

君が昨年の五月渡滿の際『今度は最後の奉公だ』と言つたのを思ひ出した。一月の末頃〇〇から『目下當地は零下二十度を上下して居ますが思つた程の事はない、室内にあつては暖房設備は完備してゐるものですから誠に凌ぎ能く内地より滿洲に避寒に來てもよい様に思はれます』なんて呑氣なことが書いてあつた、又『老骨ながら元氣で活動して居ります、然し年は年で頭は禿げはじめ、白髪は殖えるし、我身ながら情けない様になつた』と悲歎もしてゐた。滿洲以來は文字通りの東走西奔で暇がない又危險も多く幾度かの死線を越えた、それでも月に一二回は便りがあつた

この夏は暑中見舞のハカキが七月中旬によこしたきりだ、北支事變が起ると慰安の手紙を送つたが返事はなかつた

君は草野村大字與高野の出身で家族は前記に住つて子供達は父の歸りをまつてゐたのだ

雨の日

片平庸人

普請場は雨で
やすみだ
垣の白い白い
晝顔
垣根によつて
覗見りや

遠く
けむる　けむる
船腹
焚火の　跡に
ぼんやり　たつて
傘の雨
聽いた

憶土屋寛君

珠靈　小野務平

努力經過苦萬千
操觚多歳偉功全
遺編益世堪珍重
一去忽々十七年

9月3日

△節朔參賀の祝酒を廢す（明治二）△郵便規則制定（同七）△本木昌造歿（同八）△エヴアンジエリン・ブース女史救世軍總指揮となる（昭和九）

講談　妖刀流轉（ようとうるてん）

(181)　邑井貞吉演　佐々木今朝吉畫

意外邂逅（九）

餘計な事までいつたから堪らない

元來低能のキヨロ松、餘計なことを喋べらずに默つてその手紙を親分に渡せばいゝものを

松『ヘエ、親分手紙が參りましたよ、橋本屋から若い衆が使に來ましてネ、先刻親分がお連れになつたおこよさんから、急な用で親分へお手紙だそうで、へゝゝお樂しみで』

龜『馬鹿野郎、何をいやアがる』

龜藏が怒つてキヨロ松を張倒さうとした際に、おこよから來た手紙と聞いて血相を變へ、飛かゝつた辰が突如龜藏の手から右の書狀を引たくり、口惜しそうにビリ／＼つと引さいて窓

から外へポンと放つた、龜藏はモウ我慢が出來ない

龜『エゝ此阿魔ア何をしやがる、どんな用だといふのぢやアねわか、どんな事が書いて有るか知れねえものを亂暴な眞似をしやアがるな?』

とピシリお辰の横つ面を引叩いて置いて、キヨロ松をそこへ蹴倒し、急いで表へ飛出し窓の外へ投出された書狀を拾はうとする處へ半狂亂になつたお辰が追つかけて來て取縋り

辰『この野郎め、よくも打つたな、サア殺せ』

武者ぶりついたから龜藏は、目の前に半分破れた書狀が來て居ても拾ふ事が出來ない、お辰は絹の裂くような聲をふり立て

辰『畜生つ、サア殺せ、キヨロ松や早くその書狀を拾つて逃げておくれつ』

と怒鳴る、慾なキヨロ松お辰のいふ事も聞かないと後で折檻されるのが怖いから、云ひつけ通り手紙を拾ふとドン／＼逃げた

憫れむべしおこよが現在目の前に廻り會ひ、ヤレ嬉しやと喜んでその事を主人一家へ急報しようとしたこの書狀も、此處で紛失つてはおちかを始め一同へおこよの心盡しも屆かない事になる。

何うなりますか此後の納まり　讀者諸君も定めし御心配の事と存じますが、場面は一變してお話が江戸へ戻り、伊皿子の通りから曲者の後を追つて行つた奴の三九郎、篠ケ谷の蒲鉾小屋で怪しき乞食の面體を、手先の差つけた御用提灯の燭灯で篤と見定め、大いに驚いてその晩は引返す。

翌日になつて歸つて來た大和田の熊吉の家、向疵の熊吉は昨夜思ひがけなく出會した廣州軍藏の中川九郎兵衛から、抵當として預かつて參りました例の白鞘の一刀を持出し、頻りと刀身を檢ためて居ります中に、發見したのが例の柄際近い處にある星の刻印、ハテナこの刀は確に見覺へがある何うした事かと首をひねつて居る所へ歸つて來た三九郎がこの刀を差覗き、これも同じく奇異な顏をした。

向疵の熊吉は蚊の三九郎の顏を見ると、

熊『オウ兄弟今歸つて來たのか、昨夜はいろ／＼と御苦勞だつたが、お前は先きへ歸つて居るだらうと思つたに、とう／＼徹宵待ちぼけだつたが、扱ては何處ぞへしけ込んだな』

三『何のそんな譯ぢやアねえが、思ひがけねえ事から昨夜は飛んだ道草を食つた然し思ひがけねえといへば熊吉兄イ、お前が昨夜乃公に耳打をした、モウ一つの金儲けてえのは何うだつたえ』

熊『それも先づ惡い話ぢやア無えのだが、何しろ對手は昨日まで浪人も同樣、急に懐に有りついたといふ代物だけに、今の處では借金こそ有れ、金氣といつちやアお生憎だ、然し何しろ逃に叶つて出世したといふ一件だし、此方は逃れられねえ尻尾を掴んで居る事だから、その中には纏まつた口止めを巻上ねえぢやア置かねへ心算だ』

大和おみなの誠を稱ふ

下

渡邊松久

に或は亦大橋卷子は訥庵が妻として高義清節の心の所持者であり、その賦する所は愈々出でて愈々凡ならず、その英を含みその華をねらふあたり、千古に卓越せるものなり

即ち彼女が歌つて曰く

大君の御國をおもふ眞心に天のめぐみのなからましやは

と詠ずるや。一瞬にして夫訥庵が幽囚に遭ひては

世の人の音づれ絶えし我が宿を訪ふもうれしき春のうぐひす

一小島の幽谷を出でて喬木に遷り囀るにも一時の愛さを散ずるあたり。悲しくも生きる發子の心情まのあたり見るが如し

或は亦

ありつつも君をば待たむ打ち靡く我が黒髮に霜のおくまで

之れ大和の歌人磐之媛皇后が節操を詠ずるの歌なり大和おみなの誠、誠の心情千古に亘つて皇女我等の胸底をうつではないか

是後に吾等は靜かに現代日本の娘達を見るに、彼女等は魂なき傀儡の如しだ。いたづらに衣裝の美を飾り自己の魂を磨くことをわすれ安閑として日を送る昭和の娘達よ！

昭和のおみな達よ！此處に皇女等の魂を魂とし誠を鑑として、以て心底深く理想と夢とそして赤誠を持たれよ！

渡邊武門君送別句會

八月廿七日午後六時より北斗莊にて

兼題『葛の花』　即題『稻妻』

（四）

稻妻のさやりとぶれて菊青し　何鳴
稻妻の夜空と猛ける祭獅子　寒山子
稻妻にぬれて今宵の桑を刈る　欣々子
稻妻に庭樹の夜風かすかなる　長貴
稻妻や湯の香の殘る庭を掃く　石城

診療科目
一、齒科一般　保存科、補綴科、繼續架工科、齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長 日本齒科醫學士 中野應次
日本齒科醫學士 西川誠
（見習看護婦募集）
平市田町（松月堂向ヒ）（電話五〇九番）

病室増築、手術室完備
產科 婦人科 醫學博士 五十嵐雄二
往診隨時
平市新川町『電話三六九番』

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平市南町一六番地 電一七〇番
（入院隨意 病室完備）

外科 X光線科 專門
入院隨意（自炊の便あり）
平市南町
上田醫院
病室完備（電話一二九）

邦文タイプライター科 科外生募集
（時代の尖端を行く現代婦人の職業）
入學は毎月一隨時　卒業期間一五ヶ月
器械使用材料費一月金參圓五十錢
☒卒業者の就職照會は各方面と連絡を有し斡旋致します
洋裁科　躍進日本婦人の家庭職業
入學は毎月一隨時　卒業期間一本科一ヶ年　速成科一六ヶ月　月謝（ミシン使用料共）金三圓五十錢　外に裁斷科三ヶ月卒業の設あり
（細目表一部分拔萃）基礎縫、割烹着、寸法取り方、原型製出、ブルマー、スリツプ、エプロン、コンビネーション、ロンパース、簡單服、セーラー、シユミーズ
入學の資格（兩科共）高等女學校、實科女學校を卒業したるもの、本校本科を卒業したるもの、其他本校に於て相當と認めたるもの
文部大臣認可 平陽女學校 平市 電話四五五番

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平市田町（電話五八番）磐田女學校前

『入院のお需めに應ず』（看護婦及び見習看護婦募集）
齒科口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木喜政
鈴木醫院
內郷村高坂 磐炭病院前

新車のお知らせ
斷然!!! 乘心地良い!!!
三七年型フオード
入荷いたしました。是非！御試乘の程を！
市內四丁目
スヾキタクシー 電二一七番

「ニツポン」の魚は凍魚
日本産 特約販賣
平製氷會社 電二二八・三二六番
鯛 甘鯛
エビ マナ鰹
白魚 帆立貝
ワカサギ ウニ貝燒
ヒノマル凍魚
代理店 四丁目 卜印魚問屋 電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

藥品 百貨
福島縣平市二丁目
西村屋藥舖
藥劑士 鈴木新右エ衛門
電話三番
振替 東京六・二九九 仙臺一二〇一

產科 婦人科 外科 藥局
院長 木村寅次郎
醫學博士 內木宗八
藥劑師 大岩俊雄
平市新川町十九番地
入院隨意 病室完備
木村病院 電話一六四番

お醬油は……ヤマフル
釀造元 山崎合名會社
福島縣平市 電話（營業部一〇番 本店二七番）
味噌醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

時代の要求皆樣の足!!
尼子タクシーへも豆タクが入りました。
御玄關から玄關へ……迅速簡便
是非御利用を……。
市內…三〇錢 市外…四割引
流線型セダン、大型貸切バス
宮行…直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。
平市二丁目
尼子自動車商會 電話六四〇番

精神病科 腦脊髓病科 神經病科
內務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生 電話九二五番
入院隨時
院長 醫學士 金森五郎

皮膚科 泌尿器科 性病科 專門
診療時間 午前八時ヨリ午後九時マデ
平市田町
江尻醫院
醫學博士 江尻伊三郎 電話六九一
入院隨意

「區民の死活問題だ」運動愈よ表面化す
縣道編入
きのふ代表者から陳情

既報、平―神谷間直通路の開設に伴ふ縣道編入鎌田橋存續運動は愈よ表面化し地元鎌田町では昨一日草野、根本、青木、岡田、檜山、鈴木(光)の諸氏が區民を代表連署の下に左記陳情書を青沼市長に提出した、一方神谷村鎌田部落でもこれと連絡をとつて近く同樣陳情書を佐藤村長宛提出、兩者一体となつて實現運動に邁進することゝなつた

今般内務省に於て第六號國道改良工事實施により平市と神谷村との直通路竣成に伴ひ當鎌田町より神谷村大字鎌田字岸及山下地内の國道は必然廢止となり從つて現在の鎌田橋を撤廢せらるゝに於ては此の區間居住民の交通不便は更なり營業上由々しき死活問題に關する義に有之候のみならず、平市東部發展上至大の影響あり且つ仄聞する處によれば平市が本年度に於て當區内に在る市有地の拂下執行にも不利甚だしきものと被存候、就ては此の區間の道路並に本年度完成さるゝ新川町より下川原に接續する新道と平市より夏井村に通ずる縣道(飯野村地內)と連絡縣道に編入せらるゝ樣特別の御詮議を以て平市より本縣知事に申請方御配案相成度當區住民代表者以連署此段陳情候也

眞崎總務部長視察

前記陳情に對し二日初巡視のため來平した眞崎本縣總務部長は青沼市長と共に同地附近を視察、充分考慮する旨を述べたと

君島良二千石に 平市は會遊の地
けふの感懷果して如何

けふ良二千石として平入りの君島新知事は、官人としてこゝ初めてゞあるが、平は會遊の地として其の發展の目立つた變化に驚異の眼を瞬つた筈である――何年前であつたか多分大學時代と思はれるが知事の親友であつた高久院長夫人の今は亡き令兄が四倉に避暑中訪れた事があつて其の時は平へ泊つた。何でも院長夫人の父君高木鹿之輔檢事正が栃木の檢事時代親しい仲であつた之亦夫人令兄の現大連汽船重役高木磐雄氏とも無二の遊び友達であつて今回の視察途上も知事は佐瀬若松市長の案内で會津小田山々麓善立寺の塋域に眠る故檢事正の墓に詣でたと傳へられてゐる。君島知事の石城首脚は同じ自分の縄張りでも他とは些か異つた感懷無きを得まい

。。。。。。

青年幹部講習會　石城郡青年團幹部講習會を四日平第一校に開き小泉主事補出張

第一新級長
けふ任命式

平第一小學校では第二學期の級長を今二日左の通り任命した

(三ノ一)佐藤紀文　伊藤利平　(三ノ二)薗部武久　蓬沼清夫　(三ノ三)鈴木久一　鈴木秀明　(三ノ四)坂本正直　吉田賢　(四ノ一)長谷川直義　豊口階　(四ノ二)小林智平　門馬久夫　(四ノ三)山崎慶一　市原亮三　(五ノ一)市原二良　千葉文彦　(五ノ二)清水宣政　志賀惠三　(五ノ三)大和田一郎　武田太一　(六ノ一)根本孝三郎　豊口秀哉　(六ノ二)鈴木仁　山崎七郎　(六ノ三)柏木洋二　阿部正義　(六ノ四)山崎靖夫　綠川虎之助　(高一ノ一)齋田磯郎　田山弘平　(高一ノ二)野澤芳男　綠川三郎　(高二ノ一)木下藤三　小野正吉　(高二ノ二)眞田八郎　遠藤二郎

市吏員異動
學務主任には長谷川政氏

平市役所では三十一日附で吏員の異動を行つた結果助役酒井寅之助氏は學務、戸籍、兵事各課長兼任、主事草野常彌氏は産業課長に、職業紹介所長四家久米治氏は社會課長に兼任の發令あつた、尚學務主任には長谷川政氏、社會事業主任には佐藤伊太郎氏が任命された

ペタルを踏んで……重大な責務を果す
時局が生んだ奉公美談

入遠野村中國生れ當時東京市本所區大平町居住平子政春君は重大な通知に接して歸郷の際植田町辰の口木田福馬さんの義俠で自轉車を借り受け眞夜中七里餘の山坂道をペタルを踏んで驅けつけ無事責務を果した

纏頭を貯蓄
炭屋のおたかさん 恤兵金へ五圓寄託

市内紺屋町炭屋旅館方高力たかさんは零碎な客からの心つけを蓄へた金五圓を恤兵費のうちへ寄附し度いと云ふ殊勝な心掛けから今二日本社を通じ市役所へ寄託した

獻金　平第一六年生草野昌平、永久保昌一の兩君は小遣錢を蓄へた八十五錢を國防費として市役所へ

平市軍事後援會への寄附額は二日迄九百二十七圓二十四錢に上つた

餌草獻納　入遠野村上根本青年分團長長山一美外三十名の男女青年は去月三十日炎天下に馬糧用餌草百八十束を採取、獻納した

感謝は其の場限り 借りた旅費は返さぬ
平署人事相談主任 猪狩警部の世相觀

人生の影繪

陰慘な人生の縮圖、それは管内に漁農村炭礦とあらゆる各府の複雑な交錯を見せてゐる場所柄丈けに平署人事相談所の取扱事件から看て取られる。景氣話の鵜呑みから、態々來て炭鑛稼ぎの當てが外れた一家族、歸郷の途上に喘ぐ敗殘の天刑病者、情痴の戯れの意外な結果に泣く女等、之らの階級を相手に、或は旅費を給し醫藥を惠み時に私生兒認知や嫁入り道具の引渡を斡旋するやら更に田のクロの境界爭ひ水の取入れ騷ぎなど農村に起つた紛紜迄纏めて遣る程相談の内容は頗る多角的なもので其所に現れた斯うした階級の醜惡な人間心理の片鱗に就て當務者たる平署次席猪狩警部は語る

旅費の哀願に對しては其の都度警察官の取計らひで目的地方面へ行くトラックへ便乘させ、どうしても現金を必要とする場合は五十錢位の程度で乘車券を買はせるが、其の時の感激に打つて變つて歸着後返して寄越す心掛けの者などは殆どないと云つて良い位だ。色々な揉め事を持ち込まれた場合、威嚇でいけずさりとて餘り甘くても自分勝手な主張ばかりして容易に埒明かず、其間の取扱がなか／＼面倒である、行旅の難逃者救濟、其他金を根本とする問題に就ては會金さへ潤澤なら、所謂社會政策を加味して大に相談所の機能を發揮も出來るのだが何せ現在の三百圓そこ／＼では差當りそうした方針にも出られず誠に隔靴掻痒の感に堪へぬものがある

軍事扶助法協議會
けふ市會議事堂で

郡下各町村の軍事扶助法に關する協議會は二日午前十時から平市會議事堂に開き岩瀬縣社會課長から左記各項について指示、協議した

軍事扶助法の普及徹底、軍人の遺家族扶助慰藉、軍事扶助法改正に伴ふ生活扶助費增額、兵役關係者の生活調査、出動被傭者に對する職業保障法の勵行並に遺家族の職業斡旋、軍人遺家族扶助團体設立

三大炭礦水の爭覇
メンバー決る
愈五日入山プールで

三大炭礦水の爭覇――三大炭礦第三回水上選手權大會は愈よ來る五日午前零時半から入山プールで擧行するが各礦の出場選手は左の如く決定した、尚昨報の如く入山四選手が出場權を獲得した神宮大會は來る二十四日華々しく擧行されると

古河　△百米自由型―佐藤　清水　△四百米自由型―佐々木　鈴木　渡部　△百米バック―佐藤(初)　佐藤(利)　△三百米ブレスト―兒玉　鈴木(盛)　△二百米リレー―佐藤　清水　鈴木　佐藤(初)　△千五百米自由型―渡部　清水　△メドレーリレー―清水　兒玉　佐藤(初)　△八百米リレー―清水(貫)　佐藤(利)　鈴木(德)

磐城　△百米自由型―菅野(正)　佐藤(登)　△四百米自由型―庄司(駒)　鈴木(忠)　△百米バック―門馬　野崎　△二百米ブレスト―矢内(春)　矢内(源)　△二百米リレー―吉田　門馬　丹野　福地　佐藤　庄司　△千五百米自由型―庄司　福地　△メドレーリレー―門馬　矢内　丹野　△八百米リレー―庄司　福地　丹野　門馬　佐藤(登)

入山　△百米自由型―丹野(茂)　芳賀　△四百米自由型―金成(一)　三浦　△百米バック―菅野　佐々木　鈴木(源)　△二百米ブレスト―猪狩　長(嘉)　△二百米リレー―菅野　芳賀　金成　久保田　齋藤　石田　△千五百米自由型―金成　久保田　長野　△メドレーリレー―菅野　佐々木　猪狩　長瀬　金成　菅野　久保田　三浦　廣瀬

第一校兒童放送
廿八日仙台から

平一小學校の唱歌科は斯道に造詣深い武藤貞輔訓導により地方小學校中嶄然頭角を露はしてゐるが今回仙台放送局からの需めに應じ來る二十八日午後六時十分より十分間武藤訓導の伴奏で六名の兒童が放送する事となり人選其他目下準備中であるが多分五年生から選ぶ事になるであらうさ

小學教員大異動
菅波平第一首席訓導 新山校長に拔擢さる

百五十五名の廣範圍に亘つた縣下小學校教員の定期異動は一日發令され欠員中の勿來小學校長には双葉郡新山校長富塚今朝治氏、平第一首席訓導菅波國尚氏は双葉郡新山校長に拔擢された其他本郡關係の分左の通り

菅波氏略歴　大正六年磐中卒業、七年本縣師範第二部卒業、草野、錦訓導を經て大正十五年十月桑折訓導、同師習校助教諭、昭和四年四月安達郡和田校長、九年四月平第一首席に就任今日に至つた謹嚴重厚な教育家で終始篠山校長の爲黙襟に模範的の女房役を勤めた人夢轉もさる事乍ら全校から今回の轉出を惜まれてゐる

△訓導轉補

新	舊	氏名
内郷二	上大越	吉田マサキ
小名濱	磐戸	橋本榮作
入山	飯豊	吉田正直
高久	翁島	鈴木榮壽
勿來	入山	戸村紀一
植田	平三	小野絢子
平二	上大越	吉田正三
移	勿來	宗像宗二

△訓導退職　植田　小山田きのい

△就職延期任命　平第四　藤波富雄

△准代用轉任　平第四　鈴木正　新仕校平麻熊曾)

米價保合ひ
俵米定期共販値

石城販聯の俵米定期共販は一日行はれたが出荷千二百二十一俵、相場は左の如く前回に比し保合ひであつた

平一一、二四　同双葉米一一、四〇　大野一號一一、六五　同二號一一、八五　平崖一一、五八　濱邊一一、六一　小川一一、六〇　飯野一一、三八　不調草野

ハンマーで毆る

市内堂の前中鋳鋼所職工中根寛(三)は去る三十日午前四時半頃工場内で同僚の宗方寅四郎(四六)と作業上のことで口論、宗方のためハンマーで頭部を毆られたのに憤慨、そのハンマーを奪つて頭、胸部を毆り返し要二ケ月の重傷を負はせた、平署で關係者取調中

晩生は既に穗揃
神谷分場の稻作調査

神谷農試分場調査による二百十日に於ける稻作々況は

	草丈	莖數
早生	四尺〇一	一四本六
中生	四、一九	一六、八
晩生	三、九四	一六、〇
平均	四、〇五	一五、八

大暑以降氣溫も高く平年に比し草丈、莖數とも優つて居り、出穗期はこれ亦平年に比し早生二日、中晩生共四日程早く晩生は既に穗揃となつてゐる、目下の作況は良好であると

平少年團に感謝狀

平少年團では既報の如く團員が街頭進出によつて纏めた百十三圓九十三錢を愛國機獻納費として東昨朝平遞信部に寄託したが二日木村遞信部長から川崎團長宛懇篤な感謝狀が贈られた

湯本に違反

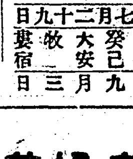
平檢事局では一日來湯本町天王崎製綿業阿部喜佐松(五四)同誰二(三六)同ヤスノ(四八)親子の外左記六名を櫻井檢事係りで調べてゐる、喜佐松は六月十二日執行の同町々會議員選擧に出候補した際から見て同人を中心として違反事件らしい

同町吹矢白鳥助太郎(四〇)今泉勝藏(二四)齋藤豊吉(四四)佐藤直惠(四二)高橋潔之助(五〇)藤田兵吾(四五)

。銅線泥。　内郷村綴鈴木政雄(四二)は五月から八月迄銅線鉛類を十數回に亘つて三十五圓分を盜み出し古物商に密賣、平署に檢擧

四倉繭市場
一日

高四、二八　安三、四〇　驅三、八四　出廻三五五　買五三〇　掛目三三



舊七月二十九日　金曜　癸巳　大安　牧　婁宿　新九月三日

許可定價帶　東京市本郷區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠館

▲一白　災ひの淵に沈むより…な願々と持つべし▲二黑　過ぎるとも靜かに控むべし急げばつまづき多し▲三碧　生氣さかんなる日、氣を抑へて勵めば萬事成功し▲四綠　心靜かに萬全のまくに向つて進めば喜びあり▲五黄　頑ばるゝ所僅少なりとも隱忍して時を待て▲六白　ゆだんする時は意外の失敗を招く注意が肝要▲七赤　進むに七分守るに三分なれば過ちなく終吉▲八白　心進むにあれども足の運びの附き纏き如し▲九紫　人の爲めに努力をしまざれば餘慶自ら集まる

三日（小名濱測候所發表）　滿潮　前二、〇〇　後四、〇五　干潮　前九、二五　後九、三〇

最も正確にして解り易い……
最近支那大地圖　附滿蒙及上海市街圖　定價七拾錢
事變關係　最新北支那詳圖　定價三十五錢
官報附錄時局詳報　内閣印刷局　週報　一部五錢　月四回水曜發行
販賣店　マルトモ書店　電一二二四　二三四

七夕まつり
奉仕特賣當籤發表

去る八月十一日より三日間の奉仕特賣は、格別の御引立を賜り非常な盛況を呈しました事を、茲に厚く御禮申上ます。規定に從ひ八月廿日特別景品の抽籤を嚴正公平に執行の結果、左の番號が當籤致しました、當籤の各位は抽籤券に御住所御氏名を記入の上左記へお出でを願ひます。

平市田町十九　景品引換所　白菊　廣瀨支店　電五四番

一等　ヒゲタ醬油十六立入一樽（六本）　15　62　117　149　238　244
二等　手提金庫一ケ（九本）　102　108　122　133　155　172　221　255　298
三等　シャープペンシル一本（三十本）　4　8　19　36　37　46　52　58　63　89　92　110　111　116　166　474　196
四等　五錢商品券　全部　201　204　206　212　226　241　243　256　261　262　268　274

◎景品は九月一日より十日迄に抽籤劵引替に差上げます。同期日後は無効となりますから御諒承願ます。

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します
福好工業合資會社　代表者　强口唯七郎
自動車部　電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します。

產科　婦人科　花柳病科
午前宅診　午後往診　入院應需
井坂醫院　平市田町（元合津醫院跡）　電話五五九番

待望ノ新軍事曲來る
東京日日新聞社當選歌レコード
コロンビア　A 進軍の歌　B 露營の歌
ポリドール　A 日本陸軍の歌　B 軍艦行進曲
平市五丁目　金光堂時計店　電話一九五番

平市南町　根本產婦人科　電三一四

簡易ノ金融　磐城無盡　趣味ノ貯蓄
縣内各町出張所

廣告